

トヨタ車体、新型コロナウイルス感染症重症患者向け移送用車両を開発・架装

トヨタ車体は、トヨタグループで推進する「ココロハコブプロジェクト*」の一つとして、4月30日にトヨタ自動車から昭和大病院に提供した新型コロナウイルス感染症重症患者向けの移送用車両を開発・架装いたしました。

車両の開発・架装にあたっては、トヨタ車体の特装・福祉事業で培った架装技術やノウハウを活用し、関連会社の東海特装車で架装。トヨタグループとして初めて「飛沫循環抑制車両」の提供につなげることができました。

・新型コロナウイルス感染症重症患者向け移送用車両



- ・ベース車両：ハイエース車いす仕様車（ウェルキャブ）
- ・車いすに乗ったままの乗車とストレッチャーごと医療機関へ搬送することが可能
- ・搬送時における感染リスクを削減するため、運転席・助手席のある車両前方スペースと後部座席以降の後方スペースの間には、特装車の冷凍車バンで使用している隔壁を設置
- ・後方の空気が前方に循環しないよう、排気ファンで後方の空気を常に外部に排出

*「ココロハコブプロジェクト」とは、東日本大震災の被災地を支援するために、全国から「心を運ぶ」という気持ちを込めて、トヨタ自動車、トヨタ販売店及びその従業員が、継続的かつ長期的に実施してきた支援活動の総称です。

今回は、新型コロナウイルス感染症で闘病中の方、日夜奮闘されている医療従事者・政府・自治体関係者の皆様に対して、何か貢献できないかとの思いから、トヨタグループが力を合わせて取り組む支援活動の総称を「ココロハコブプロジェクト」といたしました。

